

平成29年度日本衣服学会公開講演会  
ファッションサポーターに求められるもの ～支援の心構えと視点を知る～

ワークショップ「グループトーク」まとめ

	課題	課題解決案	事例	その他
1	体の動きを制限されているから、大きめの服を着ている（適応サイズではない）	リフォームして対応する		個々に対応
2	ケガをしたことで、通常の更衣動作ができない（着脱動作が制限される）		自分に合った自助具を使用することで、一人での着脱も可能になる（リーチャーなど）	
3	良い素材を見つけても、それを発信する方法がない（情報を共有する方法）	個々の情報を共有するため、情報をまとめて学会等が発信する	個々の問題等を集めることにより、それに対する解決策、アイデアを集約し、発信していく	フェイスブック等への掲載
4	提供する側として、依頼者個々に合わせるため、費用が掲載しにくい（依頼者は知りたいが…）		材料費等の実費と縫製等の人件費を計上して請求	
5	ファッションに対して関心がない（おしゃれした経験がないから）	着用できる機会をつくる おしゃれに関心を持ってもらうイベントを開催する	支援者が着せやすい服を着ていたため、スカートを履いたことがなかったが、一度着てみて、着用したいと思うようになった	ショーなどでのおしゃれを目にする機会が少なかった
6	服を自分で選択したり、買い物に行ったことがない 一人では試着できない	一緒に買い物に行き、助言をする 試着を手伝う	服飾のことを学んでいる学生が付き添った事例がある 上限価格は決めておくなどのルールはあった方がよい	店の通路が狭い、段差がある
7	機能性と審美性（実用性）を兼ね備えたものが少ない		両横にファスナーがついたブーツは履きやすい （追加購入したいが見つからない）	オーダーメイドやブーツカバーのようなものを使用
8			オーダーで発注していたものが製品化された （食事前エプロン）	
9				支援者としてのモノづくりにおいては、重ねた時間に比例していく 「困っていることがあるか？」の質問ではなく（困っていれば解決している）、困っていることを見つけ出ししていくような支援を考える
10		学会の社会的役割として、社会への発信をしていく		情報を共有しあうことで、問題解決にあたっていくことが必要